

## グリーンファイナンス・フレームワーク

## 1. 資金使途

資金使途の概要	・ 当社がプロジェクト GK を通じて運営することを企図している建設中の太陽光発電設備（以下、「本件対象プロジェクト」という）の設備投資資金
適格性基準	本件対象プロジェクトは、当社の審査基準に照らしリスク検証を実施した健全な事業運営が期待できるプロジェクトとし、以下の適格基準を満たすものとする。 <ul style="list-style-type: none"><li>・ 対象設備が日本国内に存在していること</li><li>・ 対象設備の建設・設置にあたり、森林法をはじめとする法令および諸規則を遵守することについて、適用される法令を確認したうえで必要となる手続きが行われていること</li><li>・ 対象設備の建設・設置にあたり、周辺住民への事前説明を実施していること</li><li>・ プロジェクト用地に関して、一定の基準を満たしている</li><li>・ プロジェクトが 20 年以上継続して運営されることについて、一定の基準に基づいた検証を行っている</li></ul>
長期ビジョンにたった投資方針	新設する太陽光発電所による電気を環境価値と共に需要家様に対し長期で提供するビジネスを行うために、長期的視点に立って発電所投資を実施しております。
資金の調達方法と投資先	調達方法：信託 ABL もしくは信託受益権 投資先：新規投資

## 2. プロジェクトの選定基準とプロセス

<p>適格プロジェクトの選定プロセス</p>	<p>1. プロジェクト選定関与者</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 調達資金の用途となるプロジェクトは、当社の再エネ発電所 開発・管理部の担当者により本太陽光発電事業が近隣住民に理解を頂いている案件であること、関連法規を遵守した開発が可能であること等を検討し、評価および選定が行われています。</li> </ul> <p>2. プロジェクト選定プロセス</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 再エネ発電所開発・管理部の担当者は、対象となるプロジェクトについて、当社の株主も社外取締役として参加する取締役協議会にて、総合的に分析・検討をした上で最終決定を下します。</li> </ul>
<p>グリーンプロジェクトが環境に与えるネガティブな影響とその対処方法</p>	<p>1. 想定されるリスク</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 太陽光発電設備の設置に伴う環境および地域へのネガティブインパクト</li> </ul> <p>2. リスク緩和対応</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 森林法をはじめとする法令および諸規則を遵守（適用されるものにかぎる）</li> <li>・ プロジェクト開発にあたって地元住民への説明を行い、理解を得ていること</li> </ul>
<p>適格プロジェクトの選定基準およびプロセスの開示方法</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ プロジェクトの選定基準および選定プロセスに関しては、グリーンボンド/グリーンローン発行時に投資家宛の説明資料で開示の予定である。</li> </ul>

### 3. 資金管理

調達資金と資産の紐付方法	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 信託受益権および信託 ABL によって調達された資金は、プロジェクト GK へ貸し付けられることによって、本件対象プロジェクトの設備投資資金に全額紐付けられる。</li></ul>
調達資金の追跡管理の方法	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 調達された資金はプロジェクト GK へ貸し付けられる。</li><li>・ プロジェクト GK では、あらかじめ決められたタイミングで決められた金額が太陽光発電設備の建設に利用される予定。</li><li>・ 上記のプロセスは、資金の入金される口座の情報も含めて信託契約、金銭消費貸借契約等の契約書で詳細に定められている。</li></ul>
追跡管理に関する内部統制および外部監査	<ul style="list-style-type: none"><li>・ プロジェクト GK の会計に関しては、第三者の会計事務所にて対応されるため、プロジェクトに対する貸付に関して一定の統制がはたしている。</li></ul>
未充当資金の管理方法	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 信託受益権および信託 ABL によって調達された資金は全額がプロジェクト GK への貸付金として充当されるため、未充当資金は発生しない。なお、プロジェクト GK で予定されていた建設の中止等によって未充当資金が発生した場合には、金銭消費貸借契約に基づき、信託受益権および信託 ABL の投資家へ返金されることが予定されている。</li></ul>

#### 4. レポーティング

資金の充当状況に関する開示の方法	・ 調達された資金は全額がプロジェクト GK に貸し付けられる。貸付が実行される前に信託銀行は投資家に対して貸付実行前提条件が成就していることを示し、貸付を行うことに対して確認をとる。 ・ 資金の充当状況については、アセットマネージャーが作成するレポートを通じて月次及び年次で開示予定。
インパクト・レポーティングの開示方法および開示頻度	アセットマネージャーが作成するレポートを通じて月次及び年次で開示予定。
インパクト・レポーティングにおける KPI(key performance indicator)	・ 環境改善効果として以下のインパクト・レポーティングを予定している。 ① 適格グリーンプロジェクトによって発電された発電量 ② 適格グリーンプロジェクトによる推定 CO <sub>2</sub> 削減量 ③ 適格グリーンプロジェクトにおける点検内容・不具合発生内容等の運営状況